

吾平津神社

日本神話では、アヒラツ姫は伝説の初代天皇である神武の最初の妻です。神武は日本全土を征服するための旅に出て、敵対する部族を倒し、現在の奈良県にあたる国の中央部に政府を樹立することで目的を達成しますが、その旅に出る前までは2人は一緒に住んで、子供もいました。言い伝えでは、アヒラツ姫は夫の神武と一緒に旅に出たというのがありますが、彼女は夫の成功を祈るためにとどまったとされます。古くから油津の里の総本山である阿比良津神社には、姫君が神として祀られています。

阿比良津神社は、もともと多くの民話に出てくる海の女神・乙姫を祀った神社で、猿と雉の二人の仲間と一緒に祀られていることもあります。1868年の明治維新後、アヒラツ姫にちなんで吾平津神社と改名されたこの神社の参道には、今も猿と雉の動物たちの像が鎮座しています。明治天皇（1852～1912年）の政府は、神道を国教として制度化し、在来神話や皇室の起源伝説にまつわる遺跡の崇拜と維持を奨励しました。このような背景から、油津の人々にとっては神武天皇の妻を主祭神とすることに意味がありました。